

私とオリンピック

オリンピック—記憶に残る競技と好きになった競技

荒木 雅 紀

1. はじめに

私は東京オリンピックが開催された 1964 年に生まれました。当然ですが、まだ 0 歳でオリンピックのリアルタイムの記憶はまったくないはずですが、何度も当時の VTR をテレビで見ていたせいか、あたかも自分がリアルタイムで見ていたような気がします。特に東洋の魔女と呼ばれた女子バレーの活躍は明確に記憶に刻まれています。

1972 年に開催された札幌冬季オリンピックは小学校 3 年生でした。道南のえりも町目黒という小さな漁村に住んで居たため、会場に行くことも出来ず、もっぱらテレビでジャンプやボブスレー、フィギュアスケートなんかを熱心に見ていた記憶があります。

2. 記憶に残る競技

オリンピックではいつもたくさんの感動をもらっていますが、ここ数十年のオリンピックで特に自分の記憶に残っている事柄をいくつか挙げてみます。

ちなみに全て夏季五輪の話題で偏った視点になってしまいましたがご容赦願います。

①2000 年シドニー五輪(夏)

男子柔道 100kg 超級決勝での篠原信一選手×フランスのダビド・ドイエ選手戦です。試合開始まもなく、ドイエ選手の内股に対し、篠原選手の内股すかしが決まりました。ガッツポーズの篠原選手、肩を落とすドイエ選手でしたが、審判の判定はドイエ選手の有効。結局これが響いて銀メダルとなりました。世紀の誤審とも呼ばれたこの試合でしたが、篠原選手は文句も言わず甘んじて銀メダルを受けましたね。スポーツマン精神を重視する日本人らしい態度にとっても感銘を受けました。でも、最近テレビで見る篠原氏はバラエティ番組に馴染みすぎて何ともし……(笑)。

②2008 年北京五輪(夏)

女子ソフトボール準決勝のアメリカ戦、および同

日夕刻の決勝進出決定戦の豪州戦での上野由岐子選手の活躍がとても印象的でした。2 試合続けて登板、いずれも延長戦となり合計 318 球を投げ完投(準決勝は敗戦、決勝進出決定戦は勝利)しました。そして翌日のアメリカとの決勝戦も先発して 7 回完投勝利、2 日間 3 試合で 413 球を投げ抜き、日本の金メダルに貢献をしました。ものすごい根性ですよ。

ソフトボールはその後、五輪種目から外れていますが、2020 年の東京五輪で復活する予定ですね。

上野選手は現在も現役で活躍中ですが、年齢的な面もあるので東京五輪に出場するかは微妙かな？。でも、若手選手も続々出てきているので日本チームの活躍を期待したいと思います。

③2012 ロンドン五輪

女子バレーボール準々決勝(日本×中国)、これまで全く勝てなかった中国に対し、フルセット大接戦の末勝利しました。更にその後韓国との 3 位決定戦を制し 28 年ぶりの銅メダル獲得となりました。特に木村選手、江畑選手の両アタッカーの活躍、セッター竹下選手の的確なトスが光りました。私と同姓の荒木選手も大切な場面でブロックを決めるなど、チームの勢いを盛り上げてくれました。

女子バレーは男子バレーと違ってラリーが続くので、我が家では圧倒的に男子より人気があります。

それと、バレーボールではよくサーブミスをした選手にブーイングする人がいますよね？ 私の妻はしょっちゅう“あ～あ～、サーブミスが一番もったいない”と言っています。でも相手がとりやすいサーブを打って、攻撃に勢いをつけさせてしまう事に比べれば、ミスを恐れず、相手が取りにくいサーブを打ち続ける事の方がずっと良いと私は思っています。

④2012 年ロンドン五輪(夏)

□開会式典でのポールマッカートニーのライブでハ

プニング発生。私は中学生の頃からビートルズの大ファンなので、ヘイ・ジュードの演奏を今か今かと待ちわびてました。が、開始早々ポールの生声と事前録音の音源が二重になって会場に響き渡った上に音ズレしていたため、ぐちゃぐちゃな演奏に……しばらくして事前録音の音源が消えたので中盤から後半にかけてはポールの歌声を堪能できました。後のインタビューでポールから“事前の打ち合わせでキューが出てから歌い始める事になっていたのを無視して自分が歌い始めてしまったことが主な原因”と語ったようですが、逆にとっても印象に残る開会式になったと思います。

⑤2016 年リオデジャネイロ五輪(夏)

□女子バドミントン決勝(日本×デンマーク)は燃えました。高橋・松友ペアが第 1 ゲームを 18 - 21 で落としましたが、第 2 ゲームは 21 - 9 で圧勝。第 3 ゲームは終盤でリードされながらも 5 連続ポイントで 21 - 19 と逆転して金メダル獲得。スピード感が半端なく、ワンショット毎に手に汗握る試合でとても興奮しました。ただ残念だったのは、相手のデンマークペアの態度が非常に悪かったことです。

3. オリンピックのおかげで好きになった競技

元々は全然興味のなかった競技でも、オリンピックを機に好きになった競技があります。

一つ目はカーリングです。初めて見た時は“何て奇妙な競技なのだろう？”と思ったものです。メインの道具は漬け物石みたいなストーンと、まるでお掃除道具のようなデッキブラシ。ストーンを投げる人は片足だけ滑るシューズを履き、投げたストーンを追いかけて、スウィーパーと呼ばれる人が、“れれれのおじさん”のごとく氷上をお掃除しながら移動する。でも 2006 年のトリノオリンピックで“チーム青森”が連日活躍する姿を見ている内に、戦略に富んだルールも判ってきて、すっかりファンになってしまいました。特にエキゾチックな雰囲気を持った本橋麻里選手がお気に入りでした。年をとっても出来そうなので機会があれば体験してみたい競技の一つです。

二つ目はレスリングです。昔から日本が活躍してきた競技だったと思いますが、いかんせんユニフォームがかっこ悪くて(ミナミコアリクイみたい)好きになれませんでした。でも最近はユニフォーム

デザインも洗練され、かつスター選手も多く出てきており、あれだけ多くのメダルを獲得してくれると、さすがに好きにならずにはいられませんね。

4. オリンピックグッズ

最後に私の持っているグッズを紹介します。冒頭でお話したとおり、東京五輪は 0 歳、札幌五輪は小学生でしたが、会場の札幌までは当時 6 時間以上かかる田舎に住んでいたため、気の利いたグッズなんて手に入りませんでした。唯一、田舎でも手に入る物といえば当時流行っていた記念切手です。早速、昔の切手帳を引っ張り出して見てみてびっくり。なんと札幌だけじゃなく、東京五輪の切手もあるじゃありませんか……何で？と思いましたが、理由はどうあれ多少なりともグッズを紹介出来てよかった。



ミナミコアリクイのイメージ



札幌オリンピック記念切手



東京オリンピックの記念切手

荒木 雅 紀(あらき まさのり)

技術士(建設部門)

株式会社ドーコン 環境事業本部
地質部

